



窯のなか



煙突



作品を持つ



茶碗



陶印



これで温度を計ります



栗原 流石
Ryuuseki Kurihara

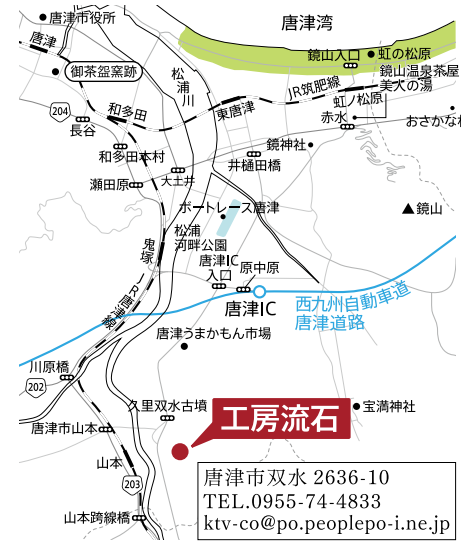
1949年10月25日
生まれ。

- 駐車場
- 作業風景見学
- 体験教室
- 要連絡

窯印・作家印▶

工房流石

コウ
ボウ
リユウ
セキ



古唐津のぐい呑みに触れたことがきっかけでこの世界に飛び込んだ。唐津焼のルーツに魅せられて作陶を続ける流石さん。そのルーツとも言える韓国との交流にも精力的に取り組まれている。

「唐津焼にしかできない表現がある」と唐津焼の魅力を熱く語り語る。登り窯で、地元の土を使う。窯を開けるまでのドキドキは今も変わらない。唐津焼は食卓で使うと段々と味わいが生まれるのが魅力だ。しかし、現在の唐津焼にはそうした風情、熟練した技術がいらなくなってきたと、流石さんは危機感を募らせる。唐津焼の素朴な中に「用の美」を追求する挑戦はこれからも続いていく。

唐津焼にしか生まれない「用の美」。

工房流石
唐津市双水 2636-10
TEL.0955-74-4833
ktv-co@po.peoplepo-i.ne.jp